

JOURNAL OF Y O K O H A M A Y A C H T C L U B



NO. 14 MARCH 2007

社団法人 横浜ヨット協会

Established in 1886

目次

I. Y.Y.C. 120周年特集

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1. 社団法人横浜ヨット協会設立120周年に寄せて | 理事長 松浦孝志 |
| 2. 創立120周年記念式典 | 窪倉保 |
| 3. 120周年のYYC施設 | 坂野真一 |
| 4. 理事会便り | 佐治秀雄・阿久津壽 |

II. 2006年の活動

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 2006 ベイサイドスクラッチレース参戦記 | ウララ 松浦孝志 |
| 2. 2006 J24BIGSHOT レース参戦記 | BIGSHOT 赤井徳夫 |
| 3. 台琉友好親善国際ヨットレース参戦記 | ETUI 梅澤 勇 |
| 4. 横浜の海を一緒に楽しみましょう | 第26期受講生 Bravo Radio 石窪直子 |
| 5. 水上学園の生徒さんからの便り | |
| 6. 奥様からのヨットライフ | 水巻まき子 |
| 7. 2006年YYCレース結果 | |
| 8. 新入会員石川さんからの寄稿 | PRONT 石川俊雄 |
| 9. 編集後記 | 広報委員長 砂原一夫 |



社団法人横浜ヨット協会設立 120 周年に寄せて

横浜ヨット協会
理事長 松浦孝志

我々の横浜ヨット協会が日本最古のヨットクラブとして、無事 120 周年の節目を迎える事ができたのは諸先輩、会員皆様のご協力とご支援のたまものと心より感謝いたします。

我々のクラブが誕生したのは 120 年前の開国間もないころです。当時横浜には日本の窓口として多くの外国船が出入りしていました。外国人の軍人や居留していた民間人により、現在の山下公園沖で盛んにボートレースが行われ、その愛好家が集まり横浜ローイングボートクラブが創設されましたのが 1886 年（明治 19 年）のことです。このクラブが 10 年後には横浜ヨットクラブと改称され横浜ヨット協会の元となりました。1886 年（明治 19 年）は、ニューヨークにある「自由の女神像」がフランスより贈られた年に当たります。また、第 1 回アテネオリンピックの 10 年も前のことです。当時から、ヨットを建造し、近隣の海域でヨットクラブとして盛んにクラブレースなどが開催されていたようです。

大正 12 年の横浜を直撃した関東大震災でそのクラブハウスは倒壊し、クラブメンバーも母国に帰国したり、神戸に移住したりし、一時クラブの存続の危機がありました。昭和になりすこし落ち着くとメンバーも日本に戻り、クラブ自体が再び盛んになりました。しかしながら戦争の気配が濃くなり、横浜港付近でのプレジャーボートの帆走は禁止されてしまい、活動が制限されてしまいました。終戦後、横浜の山下にヨットハーバー、プール、テニスコートを併設した施設ができ、ますます活動が盛んになりました。

先日ヨット会の重鎮である横山一郎先生とお話する機会があり、当時のヨット協会のことをお聞きすることができました。当時は外人の方々やそのお子さんたちが優雅にマリンライフを満喫されていた様子を見、大変うらやましかったそうです。当時はメンバーの多くが外国人であり、日本人は近寄りたがい存在だったようです。

昭和 48 年には社団法人の許可を神奈川県より得て公益法人としてさらなる活動を実践してまいりました。昭和 52 年には首都高速道路の建設、港湾施設の整備に伴い現在の磯子区に移転し、現在に至っております。

本会には現在 51 名の会員が所属し以下のような公益事業を推進しています。市民ヨット教室は、神奈川県在住者を対象とし行っており、本年で 26 期生を送り出しています。多くの市民の方が参加されヨットを通じ安全航行、帆走訓練等を行い、海洋啓蒙活動を実践しています。

また教育活動の一環とし水上学園の児童生徒、横須賀の登校拒否児童に対しヨットを通し課外教育を実施しております。また、ガールスカウトと協力し海洋訓練などを実施しています。

去年の11月には、海洋啓蒙活動の集大成として、横浜市、海上保安庁横浜保安部の全面的なご協力のもと、「第1回YYC横浜市長杯ヨットレース」を開催すべく、準備をすすめてまいりましたが、当日はあいにくの強風、悪天候により大変残念ながらレースを中止いたしました。

平成20年からは公益法人の大きな制度改革が始まり、更なる公益性事業の拡大が急務と考えます。今後ともヨットボートを通じ会員一同、公益性のある活動をさらに推進する所存でありますので今後とも会員の皆様のご助力、ご協力をお願いいたします。

22世紀を目指し横浜ヨット協会がさらに、発展し存続することを心より望んでいます。



平成18年12月3日

Y.Y.C.創立120周年記念式典を終えて

窪倉 保

皆様今日は。まず皆様に社団法人横浜ヨット協会設立 120 周年記念式典開催を支えて頂いた事を、お礼申し上げます。

そもそも私が協会 120 周年記念式典担当を引き受けた経緯は、理事会の席上 120 年も歴史のある当協会の式典は、横浜でも歴史に裏打ちされた風格のある、ホテルニューグランド本館レインボーボールルーム以外では格落ちでしょうとの軽い一言で決まってしまうました。

元来物事を深く考えて行動を起こすと言う様な日々を送っていない為、自分独りで記念式典の場所の設定・企画立案・進行・等々進める術・能力も御座いません。田島さん・上野さん・坂野さん・事務局鈴木さんに協力を求めました。

初めにホテルニューグランドに知人のいらっしゃる田島さんと相談し、暑くも無く寒くも無い、10月もしくは11月の土曜日から日曜日で、記念式典予約をお願いしたところ、約1年半先まで土曜日・日曜日・祭日は予約が入っているとの返事、120周年の2006年に式典を開催しなくては意味が無く、その後数度の打ち合わせの上、2006年12月3日 日曜日 午後6時より8時30分との返事と見積書を貰ったのが2006年3月31日 ここから本格的な出発です。

横浜ヨット協会では、以前にも節目節目で式典が御座いました。この時のデータが見つかりません。この時点で式典泥沼委員会の始まりです。

招待者の選択・招待状の作成・発送、メンバー・クルーの方々へのご案内、式次第の作成、予算案の作成と不慣れな私達は東奔西走することに成りました。9月半ばまでに招待者・会員向けの案内状が出来、少し先が見えてきました。司会者もいいタイミングで紹介をいただき、決定いたしました。

1番の不安は、食べ物・飲み物（この趣味の方々は、前後左右見境も無く何でも平らげてしまいます）の事です。飲み物に付きましては数社の方々より寄付を頂き、何とか乗り切ることが出来ました。

この様に委員会・事務局の知恵と力とみなさまのご協力で、120周年記念式典を無事に終わることが出来ました。有難うございました。

後日、何人かの方から労いのお言葉を頂戴いたしました。この先150年・200年・300年と通ずくと思います。次回は準備にはもう少し時間を掛けたほうが良い結果が生まれると思います。

協会員の方々、本当にいい時間を過ごさせて頂いて有難うございました。



Y.Y.C.創立120周年記念式典の画像



社団法人横浜ヨット協会
創立120周年記念式





120周年における Y.Y.C.の施設

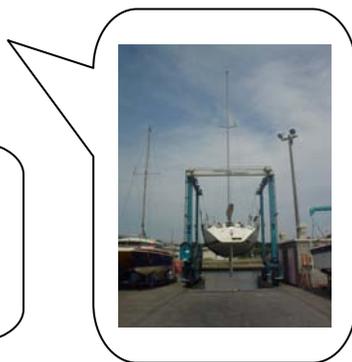
施設担当理事 坂野 眞一

私が横浜ヨット協会に初めて来たのは、22、3年前の事かと思います。良く考えると周りも様変わりしています。首都高・ニトリは影も無く道の向こう側は古い工場でした。

当時初めて乗せて頂いたE T U I が今でも現役でいる事は感慨深いものがあります。

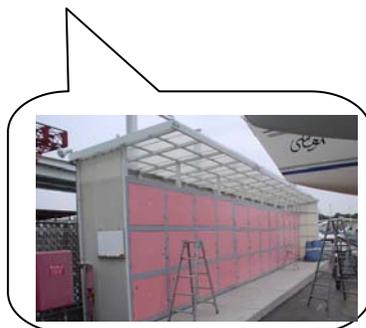
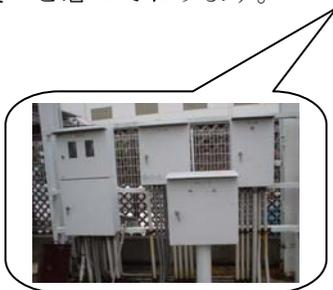
その後10数年を経て私のYYCとの関わり方もクルー・会員・理事と変化がありました。たまたま私が施設担当の理事の時に設備的に手を入れる時期が重なってしまったようで、トラベリフトの更新・施設のリニューアル・台船の設置など、今は理事を退任されている坂爪さんの下で進めてまいりました。

特にリニューアルについては外からの景観は大きく変わって明るくなったのではないかと思います。



しかし、その工事も5年前の話になります。そろそろ更新しなくてはいけない設備も出てきているように感じています。私はセールロッカー、陸電のポストや倉庫などが気になります。みなさんのご意見は如何でしょうか？何かあればお聞かせ下さい。理事会で検討いたします。

なかなか若い会員が増えず少し将来が心配ですが、安全で快適な施設が維持して行ければ良いと思っております。



120周年を迎えてのY.Y.C.の課題と現状

理事会 だより

総務委員会 佐治秀雄、阿久津壽

理事会は、原則として毎月1回開催され、横浜ヨット協会における諸問題について、議論を重ねております。皆さん、ご意見、要望、苦情等がありましたら、事務局又は各理事までお寄せください。以下に今年度議論された事案、検討中の事案についてかいつまんでご報告いたします。

□公益法人改革の動向

横浜ヨット協会は、皆さんご存じの通り、昭和48年に神奈川県のご認可を受けた社団法人という位置づけの「公益法人」であります。

公益法人改革は、政府の行政改革の一環で、民法34条に基づく財団法人や社団法人の在り方を見直そうというものです。公益法人は、公益性の高い活動を行うことから、事業税免除等の優遇措置を受けてきました。今回の改革は、それらを根本的に見直そうというものです。

当協会は、今回の厳しい基準を当てはめられると、公益性の少ない一般社団法人の枠に組み込まれるかも知れません。まだ、枠組みや取り扱いの最終段階ではありませんが、今までの会員の皆さんや先輩諸氏のこれまでのご貢献やご尽力が過小評価を受けないように主張してゆく必要があります。

そこで、当協会は、公益法人改革検討委員会を設置して、YYCの今後のあり方を検討すると共に、この改革に対応することとしました。

改革では、「公益性とは何か」が今後議論されるものと思われます。YYCでは今まで以上に、青少年の海洋スポーツの啓発、登校拒否児や施設児童の招待イベント、ヨット・ボートを通じた国際交流等、YYCならではの「公益性」を主張してゆくことによって、YYCが本来の公益法人として認められるようにすることが必要であると思われまます。

□横浜ヨット協会120周年記念事業について

当協会は、2006年で創立120周年を迎えたことから、記念事業委員会を設置し、記念レース、記念パーティー等の記念事業を行いました。(レースは天候不良のため中止になりました。)

□YYC 前面道路の改修について

隣接する横浜市下水処理施設内の公園開設に伴い、YYC 前面道路が片側歩道(YYCの反対側)の対向2車線の道路に改修されます。市民ハーバーより先は一方通行となる予定です。

歩道にはガードレールを設置しない等、YYC への大型車の進入に支障のないように要望しております。ただし、今まで通りに駐車することは難しいかもしれません。

□ 上架費用及びゴミ処理費用について

上架費用について、会員艇と会員艇以外で費用を完全別料金とすることとしました。今まではビジター艇でも、会員の紹介があれば会員艇と同様としておりましたが、今後は、紹介があっても会員艇以外はビジター料金とすることとしました。また、ゴミ処理については、会員艇は無料。会員艇以外は、全て有料（内容によって料金は異なる）とすることとしました。

□ 施設修理、改修、外部委託業務の再点検等

油倉庫の鉄扉の修理、ヤード入り口のスライドドアの修理等行うと共に、各種委託業務の再点検を行い、経費節減に努めております。

□ 入会金の変更

従来70万円であった入会金が40万円に改定されました。

□ ポンツーンの利用について

会員全員が公平に利用できるよう、また、緊急時入港の支障にならないよう、ご協力ください。止むを得ず長期係留する場合は、必ず事務局に届け出てください。なお、現在「酒呑童子Ⅱ」が修理のため係留しておりますが、3月31日までには移動の予定です。

□ アマチュア無線クラブ局の免許について

アマチュア無線クラブ局の免許が発給されました。コールサインは「JQ1YNC」です。全HFバンド出力100W、VUHFバンドも免許されています。今後の活用についてご意見をお寄せください。

□ 斉藤実氏の名誉会員の件

ヨット界に輝かしい足跡を残された斉藤実氏を、横浜ヨット協会名誉会員としてお迎えいたしました。

□ 友好クラブ提携

ヨットクラブ相互の発展、協力を目的として、「黒船ヨットクラブ」、「横浜ベイサイドヨット倶楽部」と友好クラブの提携を行いました。

□ 理事長、副理事長及び理事の任期及び改選について

理事長、副理事長及び理事の再任の回数について定めがないことから、今回、諮問委員会を設けて再任回数等についての規定を整備する事とし、今年度中を目途に提言を行う予定です。

□ 中小企業退職金共済制度の活用について

職員の退職金を担保するため、上記制度の活用を検討しております。

2006年の活動

～～2006 ベイサイドスクラッチレース参戦記～～

ウララ 松浦孝志

6月11日は朝からあいにくの小雨模様。フィティングの後いつものメンバーで出航。どうも雨のレースは気が重い。

開幕戦のミドルでは強豪に混じって満足のクラス4位、東京湾オープンレガッタではオーナーヘルムのためか「マルジ」に続き2位。そろそろ優勝がほしいところ。幸浦沖の海面はまったりとして、風は無い。チェックインしたが、スタート延期。ウララの船上は馬鹿話しの花が咲く。緊張感まったく無し。しばらくすると雨もやみ北東からそよそよと弱い風が入ってきた。マークボートが上マークを設置に行く。セールはライトジェノアに決定。このころからぐっと緊張感が高まる。この緊張感の切り替えが心地よい瞬間。10kt弱の軽風のなかスタートはまずまず。並走していた「マルジ」はいつもの鋭さが無く、角度艇速とも良くない。

レース後にオーナーの村松さんに聞くとライトジェノアが修理の為ヘビージェノアだったそうで、納得。1上は久々のトップ回航。沖に風があると信じ、ジャイブセットで沖だし。いつもながら回航などのアクションはまったく不安すら感じない完璧さ。クルーの皆さん謝謝。「マルジ」はそのまま岸よりのコースを行く。途中でジャイブし、下マークヘアプローチ。2マークではかなり差を縮められるがなんとかトップ回航。後続は「マルジ」、つづいて僚友艇「シモツカレ」。2上では残念ながら「マルジ」にトップを譲る。ジャイブセットで1下と同様のコースを行く。岸よりには「シモツカレ」が抜群のスピードで「マルジ」に迫り、そのままトップ回航。さすがフリーのメルゲス24。3上で「シモツカレ」を抜き、「マルジ」に次いで2番手フィニッシュ。レーティングを考えると何とか勝てたかな。大丈夫と思ってても不安なもので、表彰式ではどきどきしながら結果を待つ。喜びの優勝。良かった。良かった。

その後のウララのレースは、微風と潮にやられたリビエラカップ。コース取りがぼつちり決まって「優勝間違いなし」と思ったらタイムリミットに10分足りずDNF。波浮港で涙をのんだ東京sカップ。相模湾オープンでは左振れを予想し、左に出したら右振れ。初めてのビリ。東京湾選手権は第1レースでメインハリヤードが切れリタイア。ベイサイドでは大きなミスも無くちゃんと走ったが、わずかに100秒で表彰台に届かず。と後半戦は結果が出せませんでした。

YYCにもレース好きがかなり増えてきました。YYCのレベルアップが期待できます。ウララは来年もすべてのレースで優勝をめざしたいと思っています。





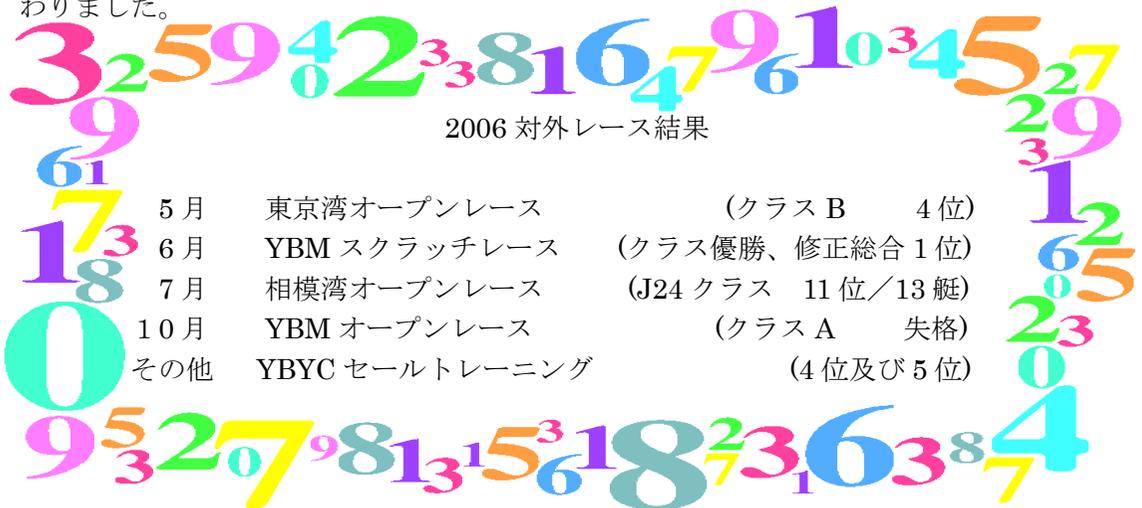
2006年の活動

~~2006 J24 BIG SHOTレース参戦記~~

BIG SHOTO ティーム代表 赤井徳夫

時の経つのは早いものですね。前回レース参戦記の原稿依頼を受け、昔の事をツラツラ思い出しながら書き上げたのはついこの間の事とっておりましたが、この度も依頼がありお引き受けした次第です。今回は J24BIG の履歴に関するお話を致しましたが、今回は 2006 年にエントリー致しました対外レースについてお話をさせていただきます。

2006 年は前回ご紹介致しました YYC スクール 23 期 OB 高橋、佐藤両君も石川艇長の下、バウマン、セールトリマーとして参戦いたし、お蔭様で YYC セールトレーニングにつきましては年間 CP となる事が出来ましたが、対外レースは大変厳しい結果に終わりました。



2006 年はこのような結果にて終了致しました。振り返りますと自分の判断ミスによる自滅(10月 YBM レース、フライングによる失格)潮、風の読み違い等反省すべき事の大変多い年でした。また、前年 7 月クラビクラにて玉井オーナーの下好成績にて大変盛り上がりました相模湾オープンレースは YYC メンバーの IO、シモツカレ、ULALA の皆さんと 6 年ぶりに J24 クラスで参戦致しましたが、結果は(11 位/13 艇)と力の差を見せ付けられた次第です。是非次回はレベルアップを図りより上位を目指したいと思っております。

最後になりましたが、今回の相模湾オープンレース参加に際しクラビクラの皆様には大変お世話になりました事、心より御礼申し上げます。

有難う御座いました。

2006年の活動

～～台琉友好親善国際ヨットレース参戦記～～

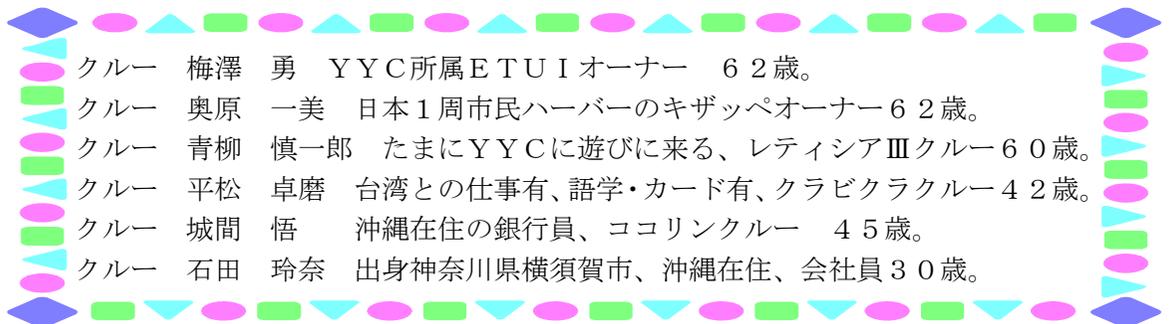
ETUI 梅澤 勇

1998年、石垣市花蓮市友好親善国際ヨットレース（八重山ヨットクラブ主催）で始まり00年、02年に与那国花蓮友好親善国際ヨットレース（与那国町主催）が開催され、04年よりヘリオスカップ台琉親善国際ヨットレースと発展して来ましたが、今回の出場艇は11艇、内訳は台湾から3艇、香港から1艇、横浜、大阪、茨城から各1艇、宜野湾から2艇、石垣から2艇の計11艇の参加です。

2002年に沖縄在住の織名氏所有ココリン（エリオット53フィートケッチ）、で、与那国島1周し台湾花蓮港間での90マイルに和泉、井上、梅澤もレースに出場し、14艇中ファーストホーム、総合2位でした、（ココリンは現在ヨット保険でお馴染み㈱インターランドオーナー松永格氏所有で来年のオークランド～大阪ダブルハンド出場の為オークランドに向けて回航中）。

さて今回06年は、1昨年まで鳳クラブに所属していたVIVA LAYLA（パシフィック40フィートのクルージングタイプ）。昨年秋に和泉、井上オーナー、佐治さん夫婦と梅澤、クラブクラクルー平松氏、織名氏で鳳クラブ～大分まで瀬戸内クルージング、大分～沖縄宜野湾までは、オーナー和泉、井上、織名氏と旧ココリンのクルーが回航し現在は宜野湾在中。

台琉友好親善国際ヨットレース参加者8名紹介。（平均年齢54,6歳やる気マンマン）オーナー和泉雅子、井上徹氏この2名はフジ3のクルーが長い、今回パシフィック40購入。



クルー	梅澤 勇	YYC所属ETUIオーナー	62歳。
クルー	奥原 一美	日本1周市民ハーバーのキザッペオーナー	62歳。
クルー	青柳 慎一郎	たまにYYCに遊びに来る、レティシアⅢクルー	60歳。
クルー	平松 卓磨	台湾との仕事有、語学・カード有、クラブクラクルー	42歳。
クルー	城間 悟	沖縄在住の銀行員、ココリンクルー	45歳。
クルー	石田 玲奈	出身神奈川県横須賀市、沖縄在住、会社員	30歳。

実施要綱

1. 主催 : 台琉友好親善国際ヨットレース実行委員会
共催 : NPO八重山ヨットクラブ
: 中華台北帆船協会
: 基隆市台体育会帆船委員会
: 沖縄県セーリング連盟 (外洋部)
タイトルスポンサー : ヘリオス酒造株式会社
後援 : 石垣市、基隆市、石垣市観光協会、沖縄タイムス、琉球新報、沖縄テレビ、琉球放送、琉球朝日放送、(予定)
協力 : 宜野湾マリナ、石垣港湾事務所、基隆港湾事務所、台湾コーストガード、第十一管区海上保安本部 (予定)
2. 日程 レース期間 2006年4月29日～5月5日 (7日間)
4月29日(土) 15:00 艇長会議
18:30 前夜祭
4月30日(日) 13:00 (日本時間) 出国手続・スタート 石垣市
5月1日(月) 15:00 (日本時間) タイムリミット、入国審査
19:00 表彰・交流会 基隆市
5月2日(火) 10:00～13:00 基隆島一周レース パーティー
5月3日(水) 終日自由行動 (一日バスツアー予定) 基隆市
5月4日(木) 出国手続・出港 基隆市
5月5日(金) 入国手続・解散 石垣市
3. 適用規則
3-1 本実施要綱及び帆走指示書
3-2 国際セーリング競技規則 (RRS 2005-200)
3-3 JSAF 特別規定 2006-2007 (JSAF SR 2006-2007)
3-4 JSAF ORCクラブ運用規定を参考にする。
3-5 海上衝突予防法
* 規則に矛盾があるときは帆走指示書及び実施要綱を優先とする。
4. コース及び公式距離
石垣市港沖スタートラインから基隆港沖フィニッシュラインまで。
公式距離 : 136マイル (216Km)。
5. クラス、6. 参加資格、7. 泊地、8. 賞、9. 参加申し込み、10. 広告の表示、11 公式掲示板、12. 参加の拒否及び取り消し、13. 参加艇の責任、は後日。

4月20日(木) 午後1時早々と梅澤、青柳は沖縄入りです、熱い日差しの歓迎を受けてレンタカーのカウンターで手続、1日3,600円で5日間、お世話になります。鍵をもらってカーナビ入力、「サー大変だ」自分の車にカーナビないからサービスマンにお願い、ホテルを入力してもらって市内へカーナビの通りに走っていたらホテルに30分で到着、石田玲奈ちゃんから夕方ホテルに迎えに来ると連絡有り、よし、男2名で市内見物お土産屋を見て公設市場の2階で遅い昼食(1階でお魚を買おうと2階の食堂で料理をしてくれる)。ビールと刺身と焼き物、ソーキそば、美味しいね美味しいね(青柳さんは、お酒が飲めない)。



6時ホテルに帰り、シャワーを浴びて、7時。青柳さん沖縄の連中の夕方は、遅いので、内地の時間と違うからイライラしないでね、と言ったら「大丈夫よ梅澤さんの方がアブナイよ」と帰ってきた。

来ました来ましたココリンのクルー3人、久しぶりと早速お出かけ、梅澤さんと青柳さん今日は何を食いたいですか、と聞いてきた、取りあえず郷土料理と沖縄民謡ライブのお店とリクエスト、泡盛で乾杯(青柳さんはウーロン茶)。歌って踊って11:00解散。

4月21日(金) 本日は、青柳さんと2人で市内ドライブ宜野湾ヨットハーバー、糸満市、平和記念公園、ひめゆりの塔、奥武島、首里城等見学、沖縄南部ドライブ終了。夜ココリンメンバー8人と、バーベキューのお店で乾杯。



4月22日(土) VIVA LAYLAオーナー、メンバー到着、和泉さん、井上さん、奥原さん、青柳さん、梅澤でやっと宜野湾に係留中の船に荷物を運び込み、バスの確保、そこに八重ヨットクラブの深見氏がレース手続の説明に来てくれた、前々回の与那国～花蓮でお世話に成っていたのでお土産(浅草の電気ブラン)泡盛より強いよ。夜八重山ヨットクラブのメンバーと旧ココリンクルーで乾杯。



4月23日(日) 皆揃ったので、沖縄北部にドライブ宜野湾から高速道路で沖縄記念公園水族館、オリオンビール工場見学、中頭郡北谷町の簡保のホテルで入浴。宜野湾に着いたら、参加艇ひょうたん(60フィート)入港していたマタマタ、泡盛で乾杯。



4月24日(月) 本日買出し、明朝6:00宜野湾～石垣島まで180マイル、約30時間石垣到着12:00予定、書類の確認、国旗(日の丸)有り、台湾無い、買いに船具屋に行っても無い、しょうがない八重山ヨットクラブより借用し準備OK。平松君到着。(台北から空路沖縄)



レース参加艇の弥勒 宜野湾到着オーナー伊藤武氏(横山晃40フィート)7年掛けて自作、クルーはヨット経験3ヶ月の今野君、2名で4月9日出港茨城の大洗からここ沖縄着4月24日約3,000マイル、五島列島付近で40ノットの風と海流が逆の中プレーニングで20ノット出たそうです。元気に明日石垣に行きます、(参ったな我々は、軟弱者で)

4月25日(火) 6:00出港、弥勒はまだ寝ているようだ、機走で火力発電所のリーフを抜け沖合いでメインファラー解除、ジブファラー解除、点呼和泉、井上、梅澤、奥原、城間、石田、平松、計7名。



沖縄本島を左舷に大きく離して渡嘉敷島との間を通過、昼過ぎに10マイル先で鯨のジャンプ2回見せてくれた。これから先島列島を西南西210度(和泉、井上)21時~0時、昼間はアビーム、風8M、波高50cm。

4月26日(水) 雨、(梅澤、青柳、平松)0時~4時、アビーム、風10M、波高1、5m、池間島灯台確認、ジブNO2、メイン1ポン石垣島南平久保崎で変進し西側を通る。(奥原、城間、石田)4時~8時、御神崎通過、晴れ、リーフ解除、機走クローズ風8M波高1、5m、朝食。(食事は全て、オーナー和泉さんが作ってくれました)。



御神崎を抜けると名蔵湾、観音崎を周ると正面に石垣港が見えてきた、センターブイを横切り真っ直ぐ石垣港入港、正面の栈橋が現在使用中ですが、入って直ぐ左側に新しく栈橋が3本作られ我々VIVALAYLAが到着艇のファーストホームでした、栈橋に八重山ヨットクラブの深見氏を初め5名の出迎えお受け舫いを取って頂きました。工事中ですがご厚意で電気・水道は、仮設を用意して頂きました。我々の泊まりは停泊地から5分旧ココリンのクルーの家が空いている3階建ての家(1階はテナント2軒)の2階全部29日まで7人で貸しきりです(無料)

4月27日(水) 晴れ、レンタカーを29日まで借りて石垣島一周、昨日の朝方通過したコースを逆周り観音崎~名蔵湾~御神崎~平久保崎(見晴らしが凄く良い)。



買い物をして停泊地に帰ると、来てるJOHANNII、NAUTICA、台湾艇、JYOHANII香港艇、大阪からの「ゆめひょうたん」(一番の大型艇60フィート位)、茨城からの「弥勒」、大分泊地が賑やかに成ってきました。

4月28日(木) 晴れ、栈橋で賑やかにビールを飲みながら、各艇がキャビンの掃除、マットやオイルスキンを乾かしている中で、弥勒はセールの繕い、午後には4人



レースメンバーが来るようです、オーナーの伊藤氏と青柳さんと話している中で、昔横浜のミニトンで頑張っていたあの伊藤さんもミニトンで関東のレースに大分参加したようです、青柳さんが中村氏とミスティで関東のミニトンで良い成績を上げていた頃、又クラブスクラッチレースにも伊藤氏は茨城の連中とクラブチームを作って参加していたとのこと、そんなことをしていると、井上さんから、買い物リストを渡されスーパーに買出し、慌しくなってきた。

4月29日（金） 晴れ、今日15：00より艇長会議歩いて1分のホテル、18：30より前夜祭、(イヤーすっかり遊んじゃった)。



借りていた家から各自バックを船に積み込み、車を返してビールを飲みながら、キャビンでミーティング、決まった事は「ワッチはそのまま」OK。

艇長会議・・・ご参加ありがとうございます、このレースは親善と安全が第一です、基隆市でのパーティーに遅れる事の無いよう各艇は全力で帆走か機走で良いから速く基隆市主催パーティーに参加し親善に協力願いますでは終わります。(非常に簡潔な会議でした)

前夜祭・・・艇長会議の和やかさが残り、各艇のテーブルも賑わい平均年齢の高さが。レーティングを上回り、若い人たちと女性の参加者が今後この親善レースの存続を決めると思いました、ヘリオス酒造社長もこのレースのタイトルスポンサーは続けますと言っていました。「前夜祭のお酒は全てヘリオス酒造でした」。VIVA LAYLAオーナー・クルーは前夜を忘れて祭りだけを楽しみました。国際色豊かなとても楽しいパーティーですが、八重山ヨットクラブの方々、明日全艇13：00スタート後、ゴールデンウィークの中、石垣島～空路沖縄、沖縄～空路北に向かいに15：00基隆港で全艇の入港確認をしなければなりません。

八重山ヨットクラブのメンバーもタイムリミットとの戦いです。

VIVA LAYLAのメンバーは、まだレースモードではありません、何故なら、スタートが13：00だからなのか、沖縄ボケなのか分かりません。

4月30日（日） 晴れ、初めて泊地の棧橋で寝ました、8：00起床、ファイティングフラグを掲げているクルージング艇もある、朝から他の艇の連中は、船内掃除、ゴミ出し、ビール飲み。VIVA LAYLAも同じ、朝食を済ませ、食器を洗って、(オーナーの和泉さんと玲奈ちゃんが)ゴミ出し。



9：00より出港手続にホテル横の石垣港湾事務所に、各艇全員まとまって出国手続パスポート提示し各自確認を受け出国手続終わり、次の艇、次の艇10：00には11艇終了。

オーナーの井上さんからVIVA LAYLAの儀式、お酒を船首、スターン、両舷に振掛け航海の安全祈願。サーテ、ビールで乾杯。

全員ライフジャケット着用し11：00出港スタートラインの名蔵港沖まで1時間石垣島から参加の船も混じってやっとレースモードになってきました。

一列になって、センターブイ通過、左手に西表島本部船に挨拶、旗を掲げていたのは石垣島の家を貸してくれた旧ココリンのクルー大浜当吾だ、ありがとう。

スタートラインは観音崎沖ブイと本部船の間見送りの観覧艇は5・6隻地元のヨットとパワーボート5分前石垣市旗UP、東北の風、5M、波高1M。

0分、スタートラインが長いので、他艇とのやり取り無く、ジャストスタート

井上さんは、いつもイイスタートを切る、VIVA LAYLAは右に名蔵崎に向ける、他は左の西表島沖の鳩間島リーフをかすめるコース、早くもスピンを揚げていたWIND DANCERが早い、次にYUMEHYOUTAN、次TOBARAMA、弥勒、CAPE PROSPERITYの5艇、遅れてALPHA, NAUTICA, 遅れてHELIOS, URIZIN。

右に居るVIVA LAYLAは、名蔵島崎を過ぎタック、いい風を頂きスピンUP、(キザッペ38フィート奥原氏からの借り物なので大事に扱う)。

鳩間島沖のリーフ半分位でALPHA, NAUTICAの前にでた、順位は6位コース270度左から右の2~4ノットの潮がある、

鳩間島を交わすと先行艇のスピンの無くなり、上りになったのでこちらもスピンドウン、だんだん暗くなってきたALPHAが追い上げ前に入る、風が落ちてきた4M何とか走る。

先行艇のマストライトは2個見える、横にALPHA順位は変わらず、後ろは見えない。ワッチに入らずオールハンズ、左10時の方向に与那国の灯台の明かりが見える、風が落ちてる3M、艇速が4ノット、時刻は10時。

頑張るけど風が無いと走れないのがヨットレース、ALPHAも一緒。

5月 1日 (月) 晴れ 12時与那国の灯台が正横の方向になるが、風3M、艇速4ノット変わらず、波高0, 5m。ALPHAが前になった位で、何も変わらず。



AM2時 与那国の灯台がなかなか切れない、風も弱いジブ、メイン共にシバーはしないで走らせる。

AM4時 与那国の灯台がまだ見える。

AM6時 明るくなったが、ALPHAは見える範囲に居る。風3M、艇速4ノット、潮にも少し押されているようだ、そろそろタイムリミットを考えなければ、親善パーティーが最優先だから。

AM8時 朝食を取ったらスッキリした、風3M、艇速4ノット、ALPHAが前に居るあれを取り合えず抜こう、タックして潮を使えば、抜けるはずだ。

小さなことで楽しもう。

AM10時 ALPHAを抜いた、5挺身くらい離して走っているオーナーの井上さんと皆で話したが、そろそろエンジンを掛けないと、VIVA LAYLAもタイムリミットに間に合わない、ALPHAも抜いたし、諦めましょう・・・・・・エンジンスタート。

ALPHAが驚いている、ジブを巻き取って直ぐエンジンスタート、今まで4ノットが急に6ノットで走り始めたのだ。

12時 先行艇を左右に見ながら、基隆島を目指す。

13時 掃海艇からの情報でWIND DANCERが一位で走っているが、ゴール出来るか微妙との事。

14時 出場艇が後ろに全部見える、機走とは言え2位だ、前方でWIND DANCERがスピンジャイブをしているの見える、本部船も見える、ジャイブをしたが基隆島の右に位置していて、上りきれない。

15時 WIND DANCERゴール出来ない、20分足りない、20分遅れで、本部船が居ない、残念今年の台琉友好親善国際ヨットレースは、全艇がDSQでした。(翌日行われる基隆島一周レースでガンバロー)

掃海艇の先導で全艇泊地に到着、綺麗な女性から全員レイを受け、パスポートを持って入国手続を岸壁のテントですませ、用意されていたバスでホテルに、直行、シャワーを浴びて、19:00基隆市主催交流会、表彰式とご馳走。

夜、平松氏の案内で青柳氏、城間氏、梅澤、足マッサージ、これは良い1時間ズートチョイ痛。1,000円支払いは、元を持っていないので平松氏のカードでお願い。

5月 2日 (火) 雷雨、基隆島一周レース 10:00スタート 基隆島は泊地から5マイル沖にあり、大きさは初島位です、6艇のエントリー天候は曇り、雷雨、風15M、波2M、コースはスタート後基隆島をアングロで回りゴール8マイル。



WIND DANCER, TOBARAMA, 弥勒、VIVA LAYLA,

CAPE PROSPERITY、ALPHAの6艇。

スタート、クローズで基隆島への上り、弥勒、ALPHAスタートで出遅れ

WIND DANCER, TOBARAMA, CAPE PROSPERITY, が先行VIVA LAYLAは落としての走り、我々がタックをした時には、先行艇は基隆島に取り付いていた、5分後弥勒に抜かれたが、CAPE PROSPERITYを抜き4位に上がる、基隆島に取り付いた時には、WIND DANCER、TOBARAMAは基隆島を周っていた、続く弥勒も力が入っていた、VIVA LAYLAのコース取りは一番良かったと思う、皆無理をしないで、そのままゴール。

着 艇 名	所要時間	レーティング	修正時間	トータル
1、WINDDANCER	1 : 14, 16	590, 3	4, 456	1
2、TOBARAMA	1 : 18, 15	600, 0	4, 695	2
3、弥勒	1 : 26, 19	580, 6	5, 179	3
4、VIVA LAYLA	1 : 38, 27	615, 0	5, 907	4
5、CAPE PROSPERITY				
	1 : 40, 13	610, 0	6, 013	5
6、ALPHA	2 : 08, 55	520, 0	7, 735	6

19 : 00 基隆市主催パーティー

5月 3日 (水) 晴れ、終日自由行動 (一日バスツアー) 台北市の故宮博物館に平松氏の案内で青柳氏、城間氏、梅澤でお出かけ、台湾のタワー見学、昼は日本料理、カラオケ台北市からタクシーでお帰り、足マッサージ平松氏のカードでお願い。



5月 4日 (金) 晴れ、東一東北 4m、波高0, 5m。 10 : 00 出国手続・11 : 00 全艇出港、平松氏は仕事で台北にバックを抱えて行きましたので、帰りは7人消防艇に見送られ放水の中お世話になった基隆港を後にそれぞれの国に舳先を向け機帆走、我々日本艇は石垣島に戻って、入港国手続をしなければならい、メインと機走で6ノット順調に行けば136マイル23時間到着はAM10 : 00の予定、クルージング艇での回航は本当に楽です、一応ワッチはそのままで近くを走る弥勒、HELISO、出港してから3時間位でWIND DANCER、TOBORAMA、YUMEHYOUTANは見えなくなった。



本船が追い越していく、2・3の本船は5マイル位まで近づくがそれ以上は寄って来ない、この近辺でヨットは珍しいのと安全を確認して去って行く、シーマンシップと感謝する。

夕方、弥勒が左の方に見えなくなった、伊藤氏と今野氏で楽しんでいるのだろう、夕食後オーナーの和泉さん、井上氏でワッチ開始、クルー全員シュラフに潜り込んだ。

5月 5日 (土) 晴れ、東一東北、4m、波高0, 5m、0~4梅澤、青柳氏のワッチ、チャートに現在地記入、井上氏ビールの後にウィスキー、リラックスしている、



順調に機走している、潮も少し押しているようだ、HRLIOは近くに航海灯が見える穏やかな東シナ海です。

4~8のワッチに交代奥原氏、城間君、玲奈ちゃん交代時に明るくなったらケンケンを流して、カツオかシーラを釣っというてと言って、ビールでお疲れ様。

ウトウトしている内に明るくなってきた、左手に弥勒らしいシュリエットが見える、正面に鳩間島確認できた、だんだん島が大きくなると奇麗にリーフのリングが朝日でリングが輝いている、リングの中に一艇ヨットのメインセール幻想の中に居るようだ、だれの船だろう多分近道している参加艇だと思うが、地元のヨットだろう、良く知って

いるコースだろうな、綺麗だ・・・。

リーフを周ったころ井上氏が起きてきた、魚釣れた？ アーア綺麗だったのに。

宮古島を交わし、石垣港を確認し中央ブイ正面そのまま真っ直ぐ入港願いますと言ってシュラフに入った。

アッ浅いよ、梅澤さん、浅いよ玲奈ちゃんの声、ヨットに乗っていて浅いは禁句

起き上がりコックピットから下を見たら浅い浅い、エンジンニュートラ正面は直ぐ島此处どこ、回りを見渡すと、左に海面にブイその先に石垣港、船の下は珊瑚礁、分かった船は勝手に90度右旋回したようだ、井上氏ラットを握り微速で珊瑚を避けながらラットを廻す、ガツンと珊瑚を乗り越えリーフを脱出、

一時間後無事石垣島に到着したが、栈橋は使用禁止工事中、仕方なく右岸壁に着岸して、燃料の手配と食事、井上氏食後燃料を入れたら、宜野湾にそのまま出しましょう、(全員睡眠十分)

13:00 出港 晴れ、東北の風4m、波高0, 5m、中央ブイ通過、観音崎、名蔵島通過、曇り、東の風8m、波高1m、メインのみクローズ機走7ノット、石垣島南端平久保崎20時通過 雨、東の風10m、波高2m、8ノット、メインリーフ半分(メインファアラーはリーフポイントが無い)。

5月 6日(日) 曇り、東の風8m、波高1, 5m、7ノット、メイン半分。水納島の灯りの左側を通りたいので探しながら進む、ドジャー、と日除けで随分少ししか濡れずに体温の保温ができる、クルージング艇はありがたい。



水納島右舷に確認、大分近い潮の影響かな、次は宮古島の池間灯台、雨は少し小降りになったかな、(この雨風の中でレースだったら辛いねー)。

梅澤さん、左前方に灯りがある、ポジション出して、(エッ流された)確かに流されている、コース変更して下さい。30度左にお願いします。

1時間後に灯光で池間島灯台に間違いはない、大きく離して通過、本船が後ろから2隻縦に繋がり左舷を通りたがっている、渡嘉敷島のコースに入っている証拠かな30度戻して下さい、(了解オーナー井上氏の声) ワッチ交代。

AM2時 曇り、東の風6m、波高1m、艇速7ノット、フルメイン、機走。梅澤、青柳氏の出番です正規のワッチは崩れてしまった、しょうがない。

障害物なし、チャートに現在位置を記入して、薄明かりの中を走る。

渡嘉敷島通過 6 : 0 0 那覇空港確認 宜野湾の火力所に向かいブイ手前でメインセール巻き上げ、そのまま機走でブイ 2 個を交わし無事 8 : 0 0 宜野湾入港。

お世話になった、V I V A L A Y L A の大掃除。夜、旧ココリンクルー達と八重山ヨットクラブの人達で今日の夜も忙しい。

旧ココリンの城間氏、玲奈ちゃんそして皆さんありがとう、八重山ヨットクラブ深見副理事とメンバーの方々ありがとう、そして今回のレースに誘ってくれたオーナー和泉さん、井上氏、参加者の奥原氏、青柳氏、平松氏ありがとう。



2006年の活動

ヨットスクール受講生の感想

～～横浜の海を一緒に楽しみましょう!～～

第26期受講生 Bravo Radio 石窪直子

半袖で開講式に集まった受講生の面々も卒業式には皆冬支度。3ヶ月間の講習というか実習もあっという間に過ぎました。元々船や海が好きで、お遊び程度にヨット乗せていただく機会もあったのですが、自分の中ではもう少しステップアップ出来たらなあという思いがありました。そんな時友人からの誘いで教室あると知り、早速の申し込み。YYCは歴史あるクラブというのは知ってましたので、さぞやスノップで敷居が高いのでは、という思いを抱きながら向かったのですが、その不安は初日嬉しくも裏切られました。

私が配艇になったのは「Bravo Radio」というとても美しい35.5ftのクルーザー。オーナーご夫妻もとてもフレンドリーな方で、色々なことを教えていただきました。訳判らないままレースに参加して飛び賞いただいたり、天気良い日に急に「千葉行こか」と東京湾横断セイリングになったのも良い思い出です。海から眺める東京や横浜の景色はいつもとは違い、波と風の音に身を置くと気持ちもオンからオフに切り替わり、心がほぐれていく様でした。

こちらの教室は決まったプログラムをただこなすのではなく、オーナー(先生)と受講生が共に作るいわば参加型の場です。初心者でも熟練受講生でも自分なりの目標や希望を持って臨むとより楽しく充実した時間過ごせること請け合いですヨ。この文章読んで下さってる方といつかYYCで、ハマの海でお目にかかれるのを心待ちにしています。

最後になりましたが、この3ヶ月傍で見ているとかなり危なっかしい点多々あったかと思いますが、気長にご指導下さったオーナーやクルーの皆様にご心から御礼申し上げます。願わくば、引き続きYYCにお邪魔しつつまた色々な体験してみたいと思っています。

Y. Y. C. 家族通信

日頃御主人様のヨットライフを支えていらっしゃる奥様からの特別寄稿です。今回で第2回目を迎える事となりました。今回は水巻文雄さんの奥様、水巻まき子様からの寄稿です。

水巻まき子

YYCの創立120周年おめでとうございます。ヨットの事を良く知らない私ですが、こんなにも長い歴史を築いて来たヨットクラブだと知り、改めて素晴らしいYYCを誇りに思った次第です。

私の夫は水巻文雄と申します。お世話になっておりまして有難うございます。そして、今後共、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

夫は、日曜日になりますと、それまでの一週間の日々の顔と違い、朝から楽しそうに準備して、元気良く出かけて行きます。

とても良いお天気の日、見送る私も、気持ちがいいものです。長年、お付き合い下さっているYYCの皆様方とお会いして、楽しい会話や美味しい食事、お酒で、日頃のストレスを発散していることと思います。(私の目からは夫はストレスゼロの人間だと思っていますが・・・) 申し訳ないのですが、私はヨットが苦手です。一年に一度くらい海に出て乗せてもらいますが、海よりクラブの皆様方とお会いしておしゃべりをする方が楽しいです。



私も若い頃は、今は亡き義兄さんと(晴夫さん)、そして水巻一家揃って乗ったりして、ヨットの中でお昼ご飯を作って食べたりもしました。今になっては、懐かしい大切な思い出となりました。家族も今は皆、それぞれに休日を過ごすようになり、日曜日は自分

の時間をのんびり楽しんでいます。ですから夫が大雨の日や仕事が入りヨットへ行かれなくなった日は残念です。(正直な気持ち、ごめんなさい。)



義兄さんが病気になり思いがけず早く逝ってしまった時期は、ヨットの話、横浜の海など思うだけで気持ちが落ち込みました。

毎年の水巻杯レースも大勢の方々にお世話をおかけして心よりお礼を申し上げます。

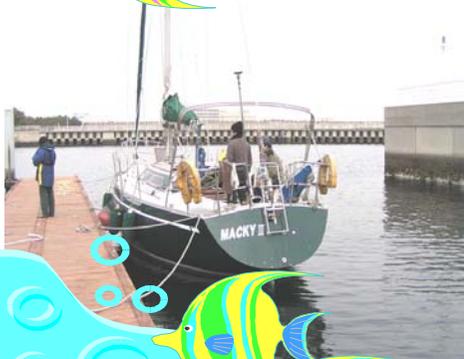
美味しい食事などを作って下さる松浦さん、田口さんはじめ皆様方に本当に感謝の思いでいっぱいです。有難うございます。

今年の夏、早いもので七回忌を済ませました。

家族の心の中では、あっという間に速いスピードで月日が過ぎてしまいました。夫も月日を重ねる中で元気を取り戻し、一時は兄がいなくなった辛さに折々に涙しておりましたが、YYCの方々との変わらぬ交流の中で、温かいお付き合いをいただいた事が何よりのお薬になったと思っています。私はヨットの事がわかりませんので、この寄稿を今回は私にと言われた時は、本当にどうしようと困ってしまいましたが、先日の120周年のパーティーに参加させて頂き、皆様方にお目にかかれて嬉しかったです。

夫はヨットから帰宅しますとその日のことを話してくれます。(自分に不利な事は言わないと思いますが) お酒を飲んだりしますので、電車で行くようにと申しますが、つつい車で行ってしまいますので帰って来るまで少し心配です。どうか、皆様見張っていて下さいませ。

今年も本当に様々にお世話になりました。来年も、そしていつまでもYYCのメンバーの方々がお元気に楽しくクルージングやレースでご活躍される事を願っています。つたない文章になりましたが・・・。



2006Y.Y.C.セールトレーニング 総合成績

総合優勝

Big Shot



艇名	R1	R2	R3	R4	R5	総合得点	総合順位
BIG SHOT	4.0	5.0	0.5	0.5		10.0	1
ALWAYS	6.0	2.0	7.0	4.0		19.0	2
ジェリーフィッシュ	2.0	7.0	5.0	6.0		20.0	3
風神	0.5	9.0	3.0	9.0		21.5	4
アンドウサンク	24.0	0.5	6.0	5.0		35.5	5
STELLA MARIS	5.0	10.0	11.0	10.0		36.0	6
フレスカ	7.0	3.0	24.0	8.0		42.0	7
フィリックス	8.0	8.0	2.0	24.0		42.0	7
波照菜	9.0	11.0	24.0	3.0		47.0	9
BRAVO RADIO	24.0	4.0	3.0	24.0		55.0	10
CIMOTUCARE	24.0	6.0	24.0	3.0		57.0	11
ETUI	24.0	3.0	24.0	7.0		58.0	12
パルティータ	3.0	25.0	24.0	11.0		63.0	13
IO	24.0	12.0	4.0	24.0		64.0	14
U.L.A.L.A	10.0	13.0	24.0	24.0		71.0	15
ムサシ	24.0	25.0	11.0	12.0		72.0	16
クラビクラ	11.0	16.0	24.0	24.0		75.0	17
SONIC	3.0	25.0	24.0	24.0		76.0	18
PINKY	24.0	25.0	24.0	7.0		80.0	19
のらり	13.0	24.0	24.0	24.0		64.0	20
源	24.0	14.0	24.0	24.0		86.0	21
マッキー	24.0	25.0	24.0	24.0		97.0	22
AQUARIUS	24.0	25.0	24.0	24.0		97.0	22
STAMPA	24.0	25.0	24.0	24.0		97.0	22



新入会員紹介

～～平成18年11月入会の石川俊雄さんからの寄稿です。～～

11月より横浜ヨット協会に入会したPR ONTOの石川です。
ベイサイドマリーナにヤマハ26Ⅱを係留しクラブレースをメインに活動していましたが、今回船をサイズアップするとともに横浜ヨット協会にお世話になる事になりました。私がヨットを始めたきっかけは、中学生のときたまたま本屋で舵という本が目にとまり、立ち読みをしていると商船大学の学生が卒業論文を書くためにヨットでタヒチまでクルージングをした記事が載っており、その当時はとても高価だと思っていたものが、将来自分でもヨットを持ち、南太平洋へクルージングができるのではとの夢を持つようになりました。



何かしたいと夢を持っていると段々実現していくもので、高校3年の時に琵琶湖のヨットスクールでヨットを習い、その年に舵のクルー募集で乗ることになった5mJ O Gで大島クルーズとヨットにのめりこんでいきました。

一時、車やスキーに浮気はしましたが、27歳の時にグループでK21を購入岡本造船に係留しクルージングをメインに活動、その後Y26Ⅱと乗り継ぎ今回Y26Ⅱの仲間とJ/V9.6CRにサイズアップすることができました。

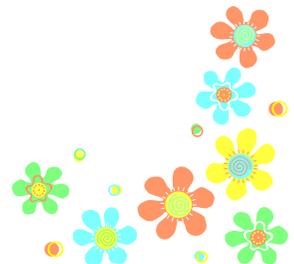
これも同じような夢を持った仲間と知り合えたことと感謝をしています。

まずは鳥羽パールレース・ミドルボート等に参加することを目標に活動していきたいと思います。

夢は小さくなりましたが、今の仲間と夢を追い続けて行きたいと思います。

また、歴史あるヨットクラブへ入会できたことを感謝いたします。

これからは色々お世話になることも有るかと思いますがよろしくお願い致します。



編集後記

2006年の流行語大賞は「イナバウアー」と「品格」が選ばれていました。「イナバウアー」が荒川静香さんの金メダル獲得による明るい話題であったのとは対照的に、「品格」は品格を問われるような場面で使われることが多かった記憶があります。社会システムの変化に伴って従来システムの歪が顕になってきているようにも思えます。21世紀に入って日本社会は大きく舵をきり、方向を変えようとしています。グローバルな自由競争が進む中で階層格差が顕在化し、少子高齢化が社会構造を急速に変えよとしています。

横浜ヨット協会も2006年で設立120周年を迎えました。120年の年月を振り返ると第二次世界大戦による激しい変動や高度成長に伴うクラブハウス移転など、クラブの存続が危ぶまれるような事態が数多くあったことと思います。その中で諸先輩会員による賢い舵取りがクラブの存続を助け、現在に繋がっています。2007年を考えると「法人制度改革」や「財政のありかた」など課題が山積みです。それから、会員の平均年齢が毎年1歳ずつ上昇している現状を変えて行かねばなりません。それが次の20年のクラブ存続の助けになって行くものと思います。

120周年を記憶に留める一助になればと思い、この特集号を編集しました。皆様にとって2007年が良い年でありますように。
by Fresca. 砂原一夫

2006年は、YYC創立120周年を迎えました。私事ではございますが、記念式典において、理事長をはじめ、YYCの皆様、来賓各位ご臨席の上で、永年勤続者として栄えある表彰を受け、まことに身にあまる光栄でございます。ここに改めて会員の皆様に厚く御礼申し上げます。この上は、決意を新たにして職務に邁進し、YYCの発展に尽くす所存でございます。今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。職員 鈴木弘樹

早いもので入社して2年が経ちました。。この会報作りもだんだん板についてきたような???気がします。もっと向上出来るように頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。 菊池恵子

JYYC 編集委員

砂原 一夫 鈴木 弘樹 菊池 恵子

Journal of the Yokohama Yacht Club	
No. 14	
発行	2007年3月1日
発行者	社団法人 横浜ヨット協会 広報委員会
〒235-0016	横浜市磯子区磯子1丁目5番16号
電話	045(751)1304
FAX	045(751)1305
http://www.yyc.or.jp	
e-mail: postmaster@yyc.or.jp	